



バリウムと胃カメラどちらがいいのか？

当院でもよく患者さんにきかれることがあります。

消化器の医師に、バリウム検査と胃カメラ検査のどちらが良いのか？と聞くとほとんどの医師は「胃カメラ検査」と言います。



- ①バリウム検査ではごく早期の胃癌を発見することは困難。
- ②バリウムでは内視鏡検査と比べて早期がんの発見率が低く、見つかっていても進行がんが多い
- ③バリウム検査は咽頭・喉頭（喉の部分）、十二指腸の評価は殆どなされません。バリウムで早期食道がんや咽頭がん・喉頭がんの検出は内視鏡に比べて困難。
- ④検査による有害事象について、内視鏡よりバリウムの方が比較的安全とされているが、バリウム検査による放射線被ばく、またバリウムが腸管内に残留する危険性（盲腸や大腸憩室）、腸管穿孔の危険性がある。

胃がん検診を目的として「癌の早期発見」「精度の高い検査」「がんによる死亡率の低下」などを考慮するならば、内視鏡検査がおすすめと考えます。

当院でも胃がん胃カメラ検診を導入しています

胃がんは早期に発見し、迅速で適切な治療を行えば90%以上の確率で治ると言われています。内視鏡検査では、ごく初期のがんも見つけやすく、X線検査（バリウム検査）に比べて、がんの早期発見率が高まることが期待されています。当院では **消化器専門の医師**が内視鏡検査を行います。苦痛の少ない鼻からの内視鏡も可能です。最新の内視鏡を使用することにより、早期胃がんの発見が可能です。この機会に一度胃カメラを受けてみませんか？

診察日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●		●
午後	●	●	●	●	●	

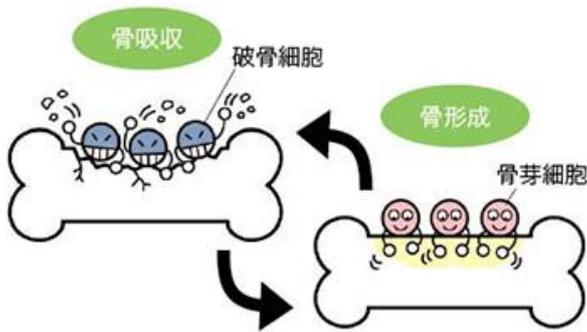
※鎮静ご希望の際は診察時に、医師にご相談下さい。

検査日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●		●	●
午後		●	●		●	

えっっ！！ 糖尿病が原因で骨粗鬆症???

糖尿病の人は骨折しやすく、そのリスクは約2倍近く上昇する。

骨がつくられる仕組み



骨は「骨吸収」と「骨形成」とを繰り返している（骨代謝）。このバランスがとれていることで、健康で強い骨が保たれる。

骨粗鬆症とは骨強度を決める骨密度や骨質が低下することで起こる病気です。骨粗鬆症があると骨が弱く脆（もろ）くなり骨折しやすくなります。

生体内の骨は「リモデリング」といい、少しずつ溶かされ（骨吸収）、また新たに作られる（骨形成）ことを日々繰り返しています。このバランスが崩れ、骨吸収のスピードが骨形成を上回った場合に、骨密度が低下すると考えられています。

糖尿病との関係は何だろう???



インスリンには骨をつくる骨芽細胞を増やす作用もあります。そのため、糖尿病になってインスリンの作用が低下すると、骨の新陳代謝において「つくる」よりも「壊す」働きの方が強くなり骨密度が低下します。

また、インスリンには腎臓でビタミンDを活性型ビタミンDにする働きがあります。活性型ビタミンDは腸管におけるカルシウムの吸収に欠かせません。インスリンの作用の低下や分泌量の不足がある糖尿病では、せっかく食事でカルシウムを摂っても吸収されにくくなってしまいます。さらに、血糖値が高い状態が続くと、尿の量が増えてカルシウムの排泄量も増えます。すると、体内のカルシウム不足を骨のカルシウムで補うことになり、骨密度はますます減少してしまいます。

糖尿病は骨密度を低下させるとともに、骨に含まれるコラーゲンの劣化を引き起こします。コラーゲンが劣化すると骨質が低下し、骨のしなやかさや強さが失われるため、骨折しやすくなります。

骨粗鬆症外来

火曜午後 脊椎外来

骨粗鬆症専門外来を行っています。

糖尿病と診断されているけど、骨密度検査を行ったことに無い方、骨密度が気になる方お気軽に外来へお越しください。糖尿病の患者さんだけでなく、その他の生活習慣病や加齢の変化による骨粗鬆症があるか一度確認してみましょう。専門外来として、骨密度だけでなく採血やレントゲン、栄養士による栄養指導や理学療法士による転倒リスク評価など患者さんを総合的にサポートし、治療を行っていきます。

一緒に骨を強く、元気にすごせるようにしましょう♡♡♡



患者様にとって、いつも優しく、誠実であること

医療法人
平和会

平和病院



045-581-2211



045-581-7651



〒230-0017 神奈川県横浜市鶴見区東寺尾中台29-1

<https://www.heiwakai.com/>